

このまちの100年

「枚方」

古くより淀川と京街道の水陸の交通の要衝として栄えた枚方。鉄道が開通すると行楽地としての開発も進み、特に枚方遊園の菊人形は全国的に知られるようになりました。現在は京阪間の住宅地としても発展しています。



大正期

老舗料理旅館の鍵屋。淀川を行き来する三十石船の船待ち宿であった



大正後期～昭和戦前期

香里遊園地で人気だった菊人形を枚方へ移して開催したことが枚方遊園(現在のひらかたパーク)の始まり



大正後期～昭和戦前期

菊人形会場にボート池や飛行塔が整備され、この頃から枚方遊園と呼ばれるようになった



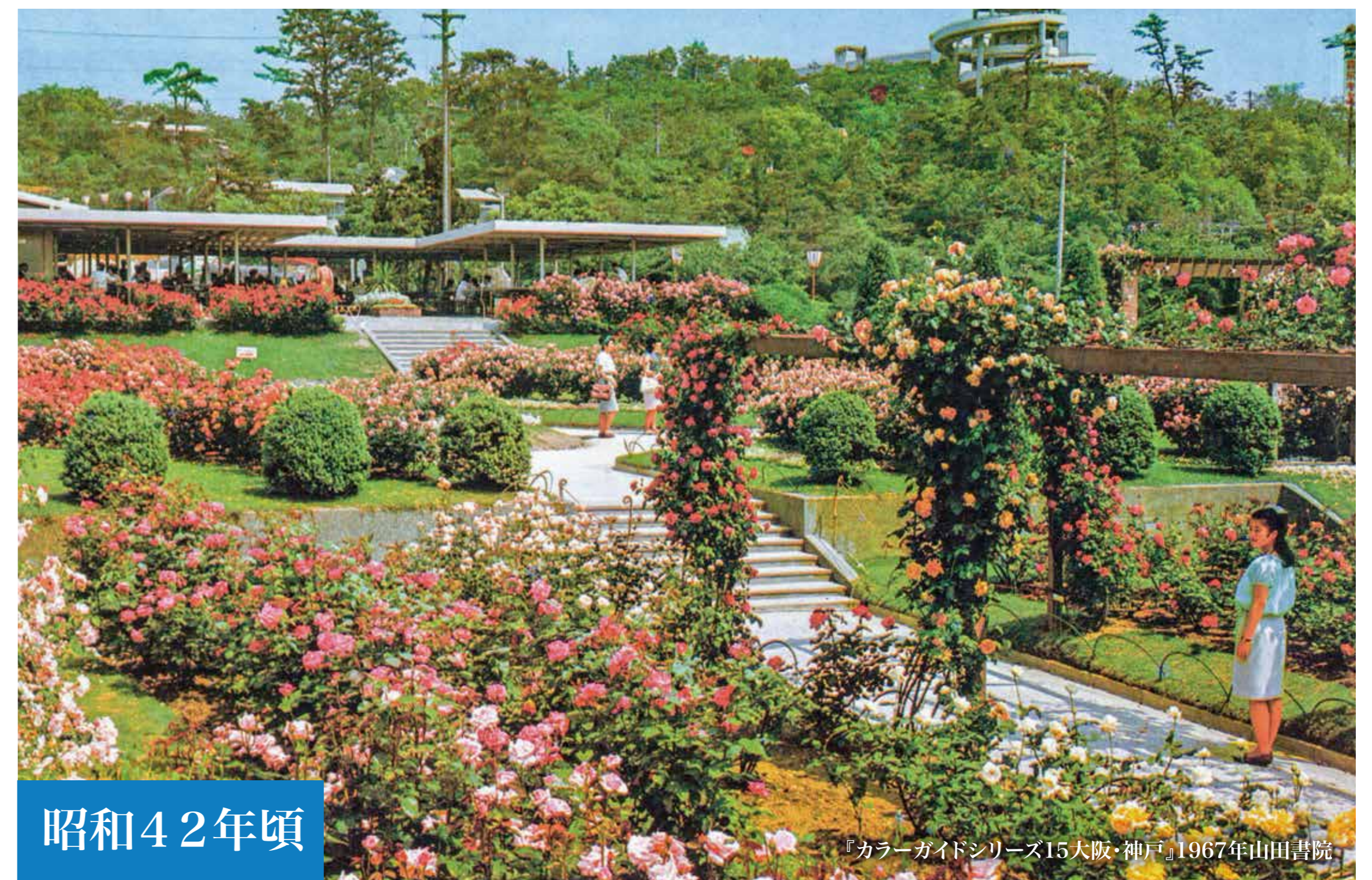
昭和戦前期

京阪電鉄の寄進で昭和9年に建立された成田山大阪別院明王院。敷地は香里遊園地跡地の一画



昭和10年代

右の建物は昭和10年代、三矢に置かれていた時の枚方町役場



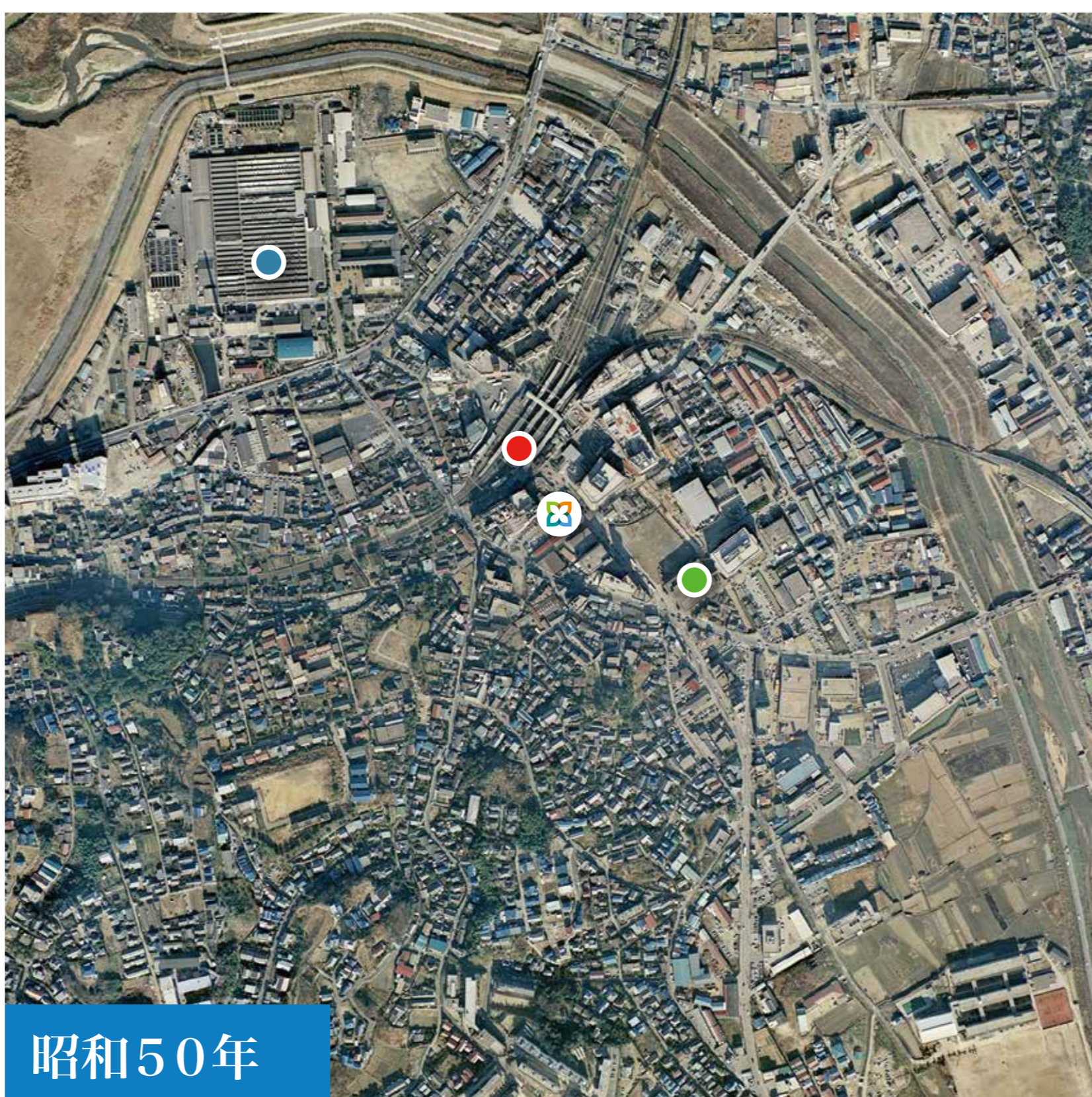
昭和42年頃

ひらかたパークの大バラ園。枚方での菊人形開催は、戦時中の中断後、昭和24年に復活したが、平成17年に幕を閉じた

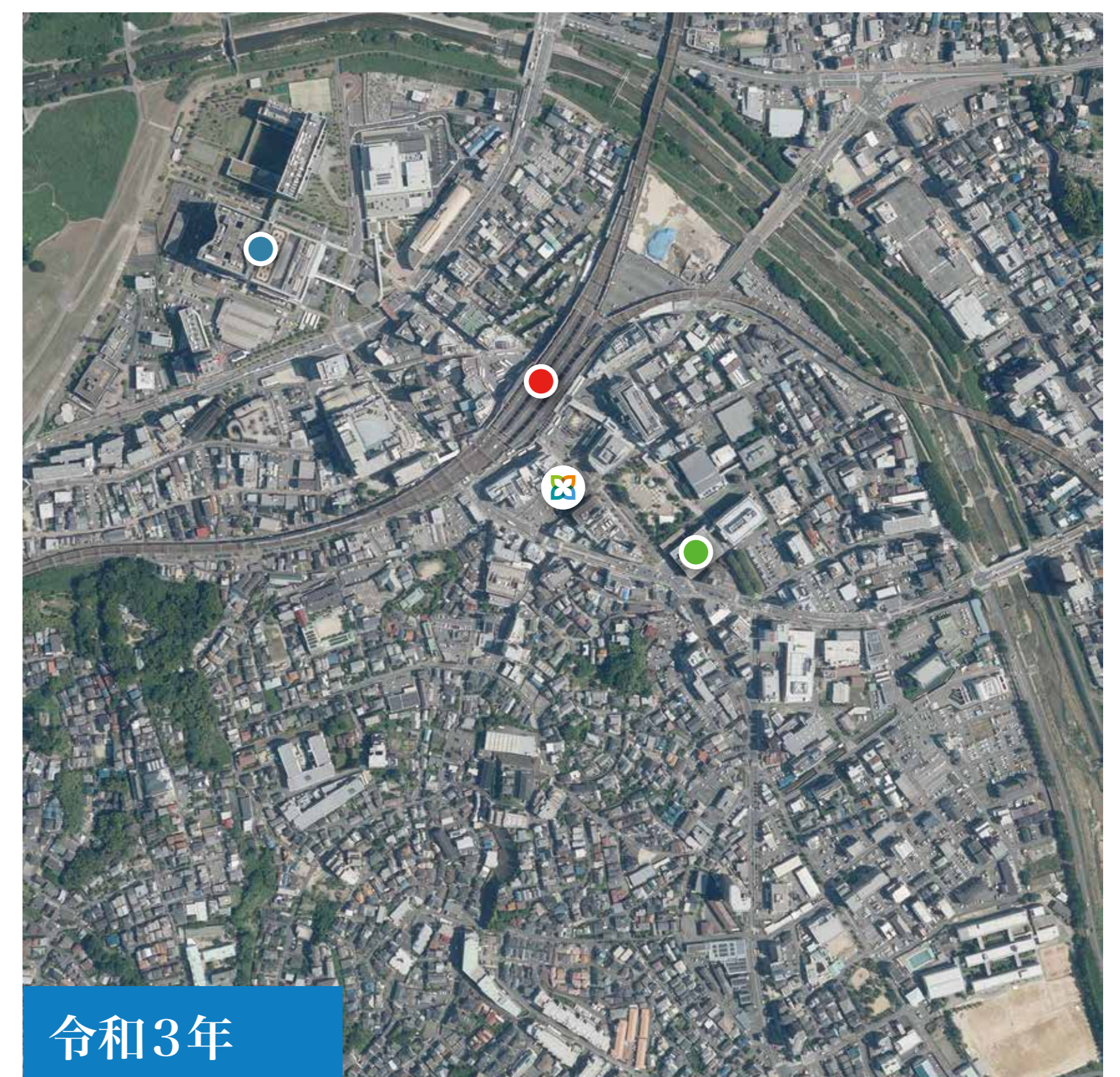
上空からみた枚方エリア



昭和23年



昭和50年



令和3年

● : 倉敷紡績 枚方工場/関西医科大学附属病院
● : 枚方市役所
● : 枚方東口駅/枚方市駅
E : 現在地

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集：株式会社コロマチ